

えんちょう通信

No.5 1

令和3年9月17日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「敬老の日」のはがき

コロナ禍の中、毎年行われていた「敬老会」も中止にしている地区が多いと聞いています。仕方のないことですが、やはりさみしいですね。

幼稚園では今週、子どもたちが、敬老の日に届くようにおじいちゃんやおばあちゃんに宛てて、はがきを書きました。

保護者の方におじいちゃんやおばあちゃんの宛先を書いてもらい、そのはがきに子どもたちが絵を描いたり、写真をはったり、「げんきですか。」「あいたいな。」などと自分の思いをひらがなで書いたりしました。一生懸命考えてかきました。遠く離れた島根県や青森県のおじいちゃん、おばあちゃんにあてて書いた子もいました。

こういう日々の具体的な活動の繰り返しの中で、人を思いやる心や人に感謝する気持ちなどが育っていくのだらうと思います。

山内志朗という先生が、「習慣」の大切さについて書いた文章の中で次のように書いておられました。「感情もまた何度も経験され、教育され、訓練されなければ身につきません。感情もまた能力なのです。愛も恩も義理も、自然と身につくものではないのです。」(山内志朗『小さな倫理学入門』2015 慶応義塾大学出版会)

9月15日(水)には、子どもたちみんなで歩いて泉駅の隣にあるポストに、そのはがきを出しに行きました。どの子も、はがきを丁寧にポストに入れていました。

ひとの思いの宛先になるということは、誰だって本当にうれしいと思います。子どもたちのはがきを読むおじいちゃん、おばあちゃんの写真が目に見えるようです。

園庭が、すっかりきれいになりました

2学期の園庭の環境整備作業は、天候に恵まれず、予定された日には実施できませんでした。みなさんの都合もあるだらうと思いましたが、いつものように集まって一斉に作業をするのではなく、それぞれ都合のいい時間にやれる範囲で、やってくださるようお願いをしました。

今週も毎日のように朝や帰りの時間に、何人かの保護者の方が園庭の草取りをしてくださいました。なかなか手が届かなかった遊具の下や畑まで、すっかりきれいになりました。ありがとうございました。「できる人ができる範囲で」という考え方は、これからも大事にしていきたいと思いました。

